うるま市 地名散歩 31

名嘉山 兼宏（なかやま けんこう）

上江洲（うえず）（イージ）

はじめに

地名には珍しい地名、読みにくい地名、由来による地名などいろいろあるが、それぞれに個性があり、意味を持っている。

私の地名散歩は、できるだけ分かりやすく、楽しくという意図だが「わかりにくい」という読者もいる。

ここで少しリラックス。上江洲の話の前に、二、三の地名を紹介する。

① 米子

鳥取県にある地名。一説には、八十八（米）歳で子供ができたので「米子」になったという、めでたい由来による地名である。

② 糸満

諸説あるが、その昔八人の英国人が漂着し、ここに住み着いたので、エイト（八）マン（男）、このエイトマンからイトマン（糸満）になったという笑い話のような説もある。

③ 保栄茂

豊見城市にある地名。この地名を正しく読める人はウチナーンチュでも案外少ない。茶化して「ボイン」と呼んだ人もいるが「ビン」と読む。南風が転訛して「ビン」となったか。

はんたばる胡弓小（くうちょうぐわぁ）

上江洲は、勝連半島の南側に連なる勝連城跡、大田バンタ、上江洲バンタ、喜屋武マーブと続く丘陵台地に位置する。上江洲バンタは眼下に下原、州崎一帯をおき、遥かに中城湾海上に浮かぶ津堅島や久高島、知念半島が眺望できる絶景の地である。また中城湾を挟んで勝連城跡と中城城跡が相対する歴史とロマンを駆り立てる場所でもある。

ここは「月見バンタ」とも呼ばれ、かつて若者達が歌い、踊り、語り、情熱を燃やした毛遊びの名所であった。

はんたばる胡弓小（くうちょうぐわぁ）　音高さ、
たきまさい胡弓小（くうちょうぐわぁ）　こがと暗河
までふきゅる胡弓小（くうちょうぐわぁ）

小鳥たちが鳴く声を沖縄ぐちでは「フキー（ユ）ン」というが、その歌声が「ふきゅる」との表現は妙を得て面白い。

近年この丘の周囲には桜が植樹され、入り口階段の左手には、

桜咲く上江洲バンタに夢遊ぶ
安敏桜（あんびんざくら）

と記された立派な記念碑が建てられている。

※「暗河」は上江洲の北方にある洞穴井泉、またこの一帯は暗河屋取と呼ばれていた。

上江洲の歩み

上江洲は『おもろさうし』に

上江洲鳴響（とよ）み国
お酒や　泉と　し居る
又　上江洲聞きやれ国
真神酒（まみき）や　泉ど　し居る

（上江洲は、名高い国である。お酒や神酒が泉のように湧き出るところである）と謡われている。

この上江洲に第一尚氏王統尚徳王の三男が移り住み、その末裔が現在の徳田家と言われている『具市川市誌』。

上江洲は当初現在地の東方、大田よりの古島と呼ばれるところにあったが、十九世紀の中ごろ現在地に移動したと伝えられ、集落内の所々に碁盤目状に区画されたこじんまりとした古い屋敷がそのことを物語っている。

上江洲は四代目地頭代を勤めた徳田吉太郎、三代目官選村長を勤めた天願松寿、民選村長を三期勤めた天願朝順（健雄）など行政面で人材を輩出している。

上江洲地名を考える

上江洲は、高地、丘陵地を表す地名と考えられる。この系統の地名として上地、上原、上間などがある。上江洲は久米島町にもあり、宇江城岳に続く山地、丘陵地にある。上原は県内の小字（原名）を調べてみると九十余箇所もあって高い土地を表す一般的な地名となっている。上地は沖縄市、読谷村、宮古島市にあるが、いずれも丘陵地に位置している。

「上」は方言で「イー」「ウィー」「ウキー」などと発音され、文字通り周囲より高い「上」を意味している。

具志川、安慶名、田場などの低地か見れば、上江洲は標高七、八十メートルの「上の土地」である。「江洲」は元来、川や湖、海などの底に砂が堆積して出来る土地のことだが、ここでは土地を表す語として久米島の上江洲、大宜味村の江洲のように「洲」をあてたと考えられる。

※訂正とお詫び

前回の与那城のところで誤記がありましたので訂正とお詫びをします。一段目の十七行目「中頭間切」は「中頭郡」の誤り、同段の「うるま市与那城字与那城」は「うるま市与那城」です。ご指摘ありがとうございました。